

# 地域でつながる 社会教育の展開について 答申

---

令和8年3月

長崎市社会教育委員

# 1 はじめに

現代社会において、都市化の進展、核家族化、ライフスタイルの変化などにより、従来の地域のつながりが希薄化し、住民同士の関係性が薄れている。このような状況の中で、社会教育が果たす役割は極めて重要である。

社会教育は、学校教育以外の組織的な教育活動を指し、生涯学習の理念のもと、あらゆる年代の人々が学び続けることを支援する。特に地域における社会教育は、住民同士のつながりを深め、地域の課題解決に向けた協働を促進する重要な機能を担っている。

本答申は、社会教育委員がこれまでの活動を通して思案した「地域でつながる社会教育の展開について」についてまとめたものである。地域のつながりの希薄化という現代的課題を踏まえ、社会教育が地域コミュニティの再生と発展に寄与できれば幸いである。

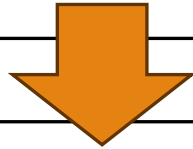
# 2 地域における社会教育のあり方

## (1) 地域のつながりの希薄化の要因

●地域のつながりが希薄化している要因は次のようなことがあげられる。

### 社会構造（交流の場）の変化

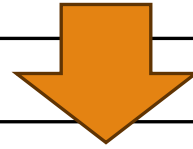
- 核家族化
- ライフスタイルの変化
- 多様なコミュニティ（職場、趣味、オンラインなど地域外のつながりの増加）



- 世代間の交流機会の減少
- 共働き世帯の増加による地域活動への参加率の低下
- 地域への関心が低下

### コミュニケーション手段の変化

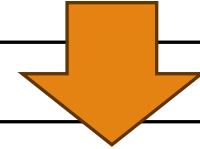
- SNSやオンラインが主流



- 物理的な距離の制約がなくなってきた
- 対面でのコミュニケーションが減少
- 遠くの人とはつながるが、隣人とは疎遠

### 地域活動の低迷

- 少子高齢化
- 部活動や塾等のこどもの多忙化
- コロナ禍によるイベント等の減少



- 参加者の高齢化、こどもの行事参加率低下
- コロナ禍による参加者の減少からの回復が難しい
- 地域の伝統文化や慣習の継承困難（後継者（担い手）不足）

# 2 地域における社会教育のあり方

## (2) つながりが強い地域とは

●つながりが強い地域の特徴は次のとおりである。

### 多世代交流

- こどもから高齢者まで、幅広い年代が参加できる活動がある
- 世代を超えた知識や経験を共有する機会がある
- 地域の歴史や文化の継承活動が活発である
- 祭りや清掃活動など、共同で取り組む行事等への積極的な参加（失敗しても問題ない雰囲気）がある
- 子育て支援を通じた保護者同士のネットワークがある

### コミュニケーションツールの有効活用

- InstagramやX（旧Twitter）等のSNS等による積極的な周知（時代にあった対応）をしている
- チラシや回覧板などの紙媒体とSNSやweb等の電子媒体を組み合わせ、世代や属性に応じた情報発信の展開をしている
- web上で遠方にいる人材による講演や会議を実施している
- 地域の行事や公民館講座など積極的に周知している
- 大学生と地域をつなげるネットワークがある

### 地域を活かす取組

- こどもから大人へアプローチ（こどもから大人へ提案）し、実行している
- 大人とこどもの交流から相互に学べる取組がある
- 魅力ある人、地域にある民間企業の存在（招致も含む）
- 地域の伝統行事や文化への誇り（例：各地域のくunchやペーロン等）がある
- 地域の特徴を活かした取組（例：斜面地活用や特産品の生産等）がある

# 2 地域における社会教育のあり方

## (2) つながりが強い地域とは【実施例】

### ●長崎市内各地域の取組事例

#### 地域コミュニティ連絡協議会

地域内にある複数の団体の連携を強め、多くの地域の皆さんが話し合っ、自分たちの地域に必要なことを「地域で決めて、地域で実行する」しくみの主体。現在長崎市内には52（R7.10.27時点）の地域コミュニティ連絡協議会が設立されている。次頁に取組例を記載。ほかの地域の取組については、右の二次元コードを参照。

各地域コミュニティ  
連絡協議会の取組



自治会について



#### 多世代交流

- ながら見守り活動（古賀地区）
- 部対抗ミニレク交流会（西北校区）
- 滑石地区ふれあいセンターまつり（大園・北陽小校区）
- 上長崎地区ふれあい餅つき（上長崎）
- 晴海台地区健康・福祉まつり（晴海台）

#### コミュニケーションツールの有効活用

- 会議やイベント等の出欠確認や連絡網としてグループLINEの活用（各地区）
- 交流を通じた人材発掘（各地区）
- FacebookやInstagramを活用した広報活動（各地区）
- LINEやホームページを使って、地域に情報を一斉配信（各地区）

#### 地域を活かす取組

- 八郎川の生物観察と川遊び（古賀地区）
- 古賀地区「歴史さるくMAP」作成（古賀地区）
- にしきたさるく（西北校区）
- 茂木猫さるく（茂木）
- ホタル観賞会（式見地区）

# 2 地域における社会教育のあり方

## (2) つながりが強い地域とは【実施例】

### ●長崎市内の様々な主体による取組事例

#### 行政

##### ①公民館まつり

各公民館で活動している自主学習グループの活動の成果を発表するもの。(ダンスや楽器の演奏、絵画や書道の展示など)

##### ②放課後こども教室

小学校区において、放課後又は週末等に小学校等を使用し、こどもたちの安全・安心な居場所を設け、地域住民の参画を得て、こどもたちとともに勉強、スポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等を行うもの。

#### 企業

##### ①A社

プロスポーツ選手が幼稚園や小学校に訪問し、こどもたちの健全育成とスポーツ振興を目指し、スポーツ教室や講話を行っている。

##### ②B社

市内の幼稚園・保育園等に絵本等を寄贈している。

##### ③C社

高齢者が買い物に困る状況を解決するため、自宅の近くで買い物ができる「移動販売車」を導入している。(週1回地区内を巡回)

#### 学校

##### ①コミュニティ・スクール(学校運営協議会)

学校と地域住民等が一緒になって学校の運営に取り組み、目標の実現に向けて協働する仕組みのある学校。

長崎市内では、15(R7設置予定含む)の学校で設置。(小学校67校/中学校37校)

##### ②職場体験・ボランティア

中学生が地域内で職場体験をしたり、地域の清掃活動や防災訓練へ参加したりしている。

# 2 地域における社会教育のあり方

## (3) 地域のつながりづくりと社会教育

●地域のつながりづくりは、特に災害時など、暮らしや生活が関わってくる。地域のつながりづくり、まちづくりを考えること自体が社会教育であり、「地域をつなげる社会教育の展開」のポイントを以下のとおり整理する。

### 1 多世代・多属性の交流による「人づくり」

- ・「社会全体の交流」への拡大：コミュニティナース（コミュニティのつなぎ役、地域を支援する人）等の地域をつなぐ人を見つけ、育てるなど、多様な人々が参画しやすい仕掛けづくり。
- ・主体的な参画と循環：大学や社会教育施設を交流拠点とし、大人とこどもが相互に学ぶ取組等を通じて、誰もが役割を持てる環境を整える。

### 2 時代に即した「情報発信とネットワーク」

- ・ハイブリッド発信の徹底：SNS等のデジタル媒体と、回覧板・チラシ等のアナログ媒体を併用し、情報過渡期へ対応する。
- ・「体験の共有」による波及：住民からの意見収集など参加者の「口コミ」や実体験の発信を重視し、デジタルツールを活用し、共感を通じたネットワークの拡大を図る。

### 3 地域の特性を活かした「まちづくり」

- ・広域的な視点の導入：町単位を超えた「市」全体での連携や、地域間の魅力を競い合う仕組み（コンクール等）による活性化。
- ・地域の特性の再発見：伝統行事（くんちやペーロン等）や地形（斜面地等）など地域独自の資源を再発見し、新住民や若者が参加しやすい雰囲気をつくり、地域に誇りを持てる活動の展開。

### 4 暮らしに直結する「社会教育の機能」

- ・生活課題の解決：地域のつながりを「災害時の支え合い」や「買い物支援」などの実生活の安心感に直結させる。
- ・「まちづくり＝社会教育」の認識：地域課題を自分事として考え、行動するプロセスが社会教育の目的・役割につながる。

### 3 おわりに

現代社会における地域のつながりの希薄化は、少子化、核家族化、デジタル化などをはじめとする多様化した社会の複合的な要因によって引き起こされている。

地域でつながる社会教育の展開は、単なる学習活動の提供にとどまらず、地域社会の再生と発展の基盤となる重要な取り組みである。一人ひとりが学び続け、互いに教え合い、支え合い、ともに地域の未来を創造して行く。そのような地域コミュニティの実現に向けて、社会教育の果たす役割はますます重要になっている。

これからは、変化する社会情勢に対応しながら、多世代交流、ICTの活用、地域の特性を活かした創意工夫がある社会教育活動や取組を展開し、必要とされる地域づくりを推進していくことが求められる。特に、伝統を大切にしながらも、誰もが「できる範囲」で関われる柔軟な受け皿をつくることや、デジタルとアナログを融合させた情報発信により、これまで地域活動に接点のなかった層へ「共感」を広げていくことが不可欠である。

そのためには、地域、学校、企業、行政が協働し、こどもと育む地域づくりや、地域の人材や情報をつなぐこと、そしてそれらを結びつける「つなぐ人（コーディネーター）」を育むことなどが持続可能な地域づくりの足掛かりになるものと期待している。地域のつながりを、災害時の支え合いや日々の暮らしの安心感といった「生活課題の解決」に直結させ、地域を自分事として考え、行動するプロセスが社会教育の目的・役割につながると考える。

地域、学校、企業、行政が一体となって、こどもや大学生から高齢者まで、多種多様な人々が、見守り合い、支え合い、楽しめるような地域のつながりを育む社会教育の新たな可能性を切り開いていくことが重要である。

# 第37期長崎市社会教育委員 審議等の経過

期 日	内 容
第1回会議 令和6年5月30日	(1) 議長・副議長の選出について (2) 議事録の記録方法等について (3) 社会教育と社会教育委員について (4) 長崎市の取組と施設の状況について (5) 長崎市教育委員会からの諮問事項について (6) 長崎県社会教育委員連絡協議会について (7) 活動計画について
社会教育委員視察（第1回） 令和6年11月17日	中央公民館まつり、南公民館まつり、長浦小学校秋まつり
社会教育委員視察（第2回）	小島小学校学校運営協議会
第2回会議 令和6年12月18日	(1) 各行事視察の報告 中央公民館まつり、南公民館まつり、長浦小学校秋まつり、小島小学校学校運営協議会 (2) 前期答申に対する実態調査結果報告 (3) その他（メタバース授業の見学）
第3回会議 令和7年7月10日	(1) 諮問（「地域でつながる社会教育の展開について」）に対する答申の構成について (2) 意見交換
第4回会議 令和7年10月9日	(1) 諮問に対する答申の構成について (2) 答申の内容について
第5回会議 令和7年12月16日	(1) 答申の内容について
第6回会議 令和8年2月17日	(1) 答申の内容について

# 第37期長崎市社会教育委員名簿

任期：令和6年4月1日から令和8年3月31日まで（◎議長、五十音順、敬称略）

氏名	所属・役職等
いがらし だいすけ 五十嵐 大輔	長崎市立愛宕小学校 校長
おおくぼ はなえ 大久保 花笑	長崎大学医学部 学生
かとう あつし 加藤 淳	公募委員 ※令和7年3月31日をもって転勤のため辞任
かなや れいこ 金谷 玲子	村松小学校区青少年育成協議会、村松小放課後子供教室地域コーディネーター
かわぐち たけし 川口 猛	長崎市立岩屋中学校 校長
◎ しおつき ゆう 塩月 悠	長崎純心大学人文学部こども教育保育学科 准教授
にいや かずゆき 新谷 和幸	長崎大学人文社会科学域 准教授
まつお えいこ 松尾 栄子	長崎市野母崎地区民生委員児童委員協議会 会長
まつもと りつや 松本 律也	福田小学校区コミュニティ連絡協議会 事務局長
よしむら まさはる 吉村 正春	長崎市レクリエーション協議会 事務局長